

---

# 『～ポイズン～』

直江 カネツグ

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

『～ポイズン～』

### 【Nコード】

N0242G

### 【作者名】

直江 カネツグ

### 【あらすじ】

これは夢から始まる物語主人公、智也が見る「夢」そこに現れる女性は、悪魔か天使か？ポイズンとは？謎だらけで始まる…

## 第一章

（第一章）

（夢の中の女性）

彼女は、清々までの可愛い笑顔で、俺の前に現れた。

だが、それは夢の中…

艶やかな金色の髪…

噛みたくなるような厚い下唇…

そして吸い込まれそうな青い瞳…

どうやら外国人の様だ

彼女は、隣の男性に話しかける。

「髪の長さ同じくらいだね。」

そう言いながら男性に身を寄せて長さを比べた。

隣に居た俺は、彼女から香る甘い香りにトキメキながら様子を見ていた。

すると！彼女は髪の長さを比べながら男性に唇を寄せている。

男性に何かを喋ると今度は、こちらに近づいてくる。またふわりと香る甘い香りに『ドキッ』と心を撃ち抜かれた。

チリチリリン… ?

鐘の音で目が覚めた…

いい所だったのに、と腹立ちながら続きを見ようと眠ろうとする  
が寝れない。

この時はまだ、この夢が悪夢の始まりだと言つ事を知らずに居た……

第一章           『完』

## 第二章 「正夢」

### 第二章 「正夢」

早朝、昨夜見た夢の女性の事を考えながら仕事へいく支度をした。

「それにしても美しかった……」

そんな事を考えながら職場へ行った。

夕方になり同僚の

「圭司」が話しかけてきた。

「先輩！ いい店見つけたから飲みに行きませんか？」

別に断る理由もなくOKし、店へ向かう事になった。

圭司は一軒のバーの前で立ち止まると話し出した。

「この店なんか感じいいんすよね」 さっ！先輩入りましょう。

「取り敢えず店へ入る事にした。」

店は確かに圭司の言う通りキレイで、居心地の良い店だった。

「ん！？この店は夢の中の……」

カウンター席には夢の中でみた男性が座っていた。

空いていた隣の席に座る。

「まさか…あの女性に会えるのでは!!」

胸が高鳴っていた。

「先輩!!どうしたんですか？」

「いや、別に……いい店だなんて思っていた、ただだよ。」

「なら良かったです。気に入って貰えて嬉しいです。」

圭司は楽しげだった。

俺に至っては圭司の何倍、いや、何十倍　楽しげに見えたのだから……

暫くすると店のドアが開いた。

「カラアン……今時めずらしいドアベル……」

それと同時に一人の女性が入って来た。

が、残念ながら日本人の女性であった。

「なんだ……違うのかぁ……期待を裏切られた。」

でも、ここまで夢の中と同じなら期待して当然である。

しかし……　女性は隣の男性の元へ歩き出す。

「行動が似ている……」

女性は男性の耳元で何か話している。

が、次の瞬間！！

彼女が持っていたカバンからキラリと光る物が見えた。

「な、ナイフだ！！」

女性は、カバンからナイフを取り出し突き刺そうとした。

一部始終を見ていた俺は、間一髪の所で止めに入った。

「シーン……」

辺りは静まり返った。

女性を取り押さえた俺は震えていた。

自分が取った行動が怖かったからだ、 ナイフを持つ人間を前に  
怖い訳がない。

少しすると誰が呼んだのか、すぐに警察が来た、 警察に色々聞  
かれた俺は、くたくたになった。

とんだ災難だ……。

圭司は、俺の事を待っていてくれた様で署のロビーに佇んでいた。

「先輩！すみません… 僕があのお店に誘ったせいで…」

「いや、圭司のせいじゃないよ。」

俺は落ち込んでる圭司の肩を叩き優しく言った。

「今日は、疲れたから帰ろうか。」

「はい、分かりました。」

圭司と別れ、俺は自分の家へと向かった…。

第二章 「正夢」

完

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n0242g/>

---

『～ポイズン～』

2010年10月9日01時05分発行